

文書番号	I E C - 1 1	版	1.00
		全ページ	16 頁

エコアクション21
環境活動レポート 2019 年度版

第 1.00 版

(対象期間：2018 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日)



作成日 2019 年 11 月 19 日

発行日 2019 年 11 月 28 日

株式会社 池上鉄工所



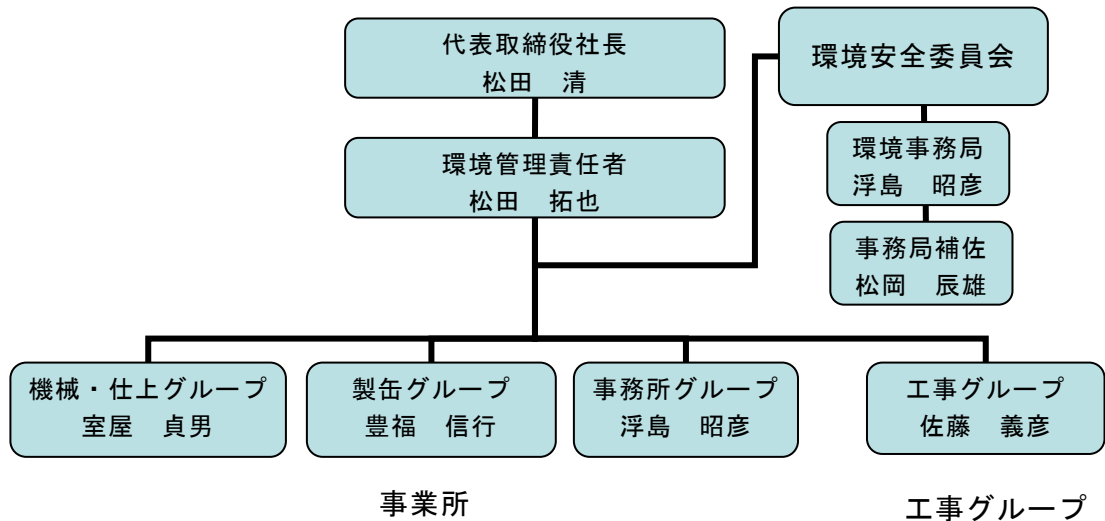
目次	1
1. 組織の概要	2
2. 環境方針	4
3. 環境目標	5
3.1 環境目標の設定（3ヵ年計画）	5
3.2 本年度の環境目標	6
4. 環境活動計画	6
5. 環境目標の実績	6
6. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	6
6.1 二酸化炭素排出量の削減	6
6.2 廃棄物排出量の削減	8
6.3 水資源投入量（排水量）の削減	10
6.4 化学物質購入量の削減	11
6.5 グリーン購入	11
6.6 本社事業所周辺の清掃	12
6.7 環境に配慮した工事施工	12
6.8 環境活動の評価	13
6.9 次年度の取組内容	14
7. 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無	15
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	16

1 組織の概要

- 1.1 事業所名 株式会社 池上鉄工所
- 1.2 代表者氏名 代表取締役社長 松田 清
- 1.3 事業所所在地 宮崎県延岡市大武町 39-6
- 1.4 設 立 1946年（昭和21年）10月11日
- 1.5 事業活動の範囲 機械装置及び部品の製造及び機器据付配管工事
（建設業許可番号 宮崎県知事許可 般-29 第1217号）
許可を受けた建設業：管工事業・鋼構造物工事業・機械器具設置工事業
- 1.6 事業内容
各種産業機械・自動化・装置等の設計製作及び据付・保全工事
圧力容器の設計製作及び据付
鋼構造物の設計製作及び据付
各種プラント配管、焼却炉等環境衛生装置の製作及び据付
プラスチック成型金型の設計製作及び修理
金属プレス加工
精密機械部品製作
- 1.7 主要製品及び加工内容
金型・治工具製作、省力化・自動化装置製作
MC加工、フライス加工、旋盤加工、ワイヤー放電加工、
プレーナー加工、溶接加工
- 1.8 環境管理責任者氏名及び連絡先 松田 拓也
TEL：0982-34-3211 FAX：0982-35-4859 E-mail：takuya@ikegamitekko.co.jp
- 1.9 環境事務局担当者氏名及び連絡先 浮島 昭彦
TEL：0982-34-3211 FAX：0982-35-4859 E-mail：a_ukishima@ikegamitekko.co.jp
- 1.10 事業の規模

活動規模	単位	2016年 (15.10～16.9)	2017年 (16.10～17.9)	2018年 (17.10～18.9)	2019年 (18.10～19.9)
製品販売量	百万円/年	666	642	756	1,122
従業員数	人	43	47	45	48
床面積	m ²	4,443	4,443	4,443	4,443
敷地面積	m ²	17,566	17,566	17,566	17,566

1.11 環境活動範囲及び組織運営体制（認証登録範囲）



※事業所とは、機械・仕上グループ、製缶グループ、事務所グループを指す。
 ※事務所グループは、営業グループ、購買グループ、総務経理グループ、管理グループとする。

【権限と役割】	
社 長	当社の環境経営の最高責任者として、次の役割を負う。 (1) 環境経営に関する基本理念・長期戦略・基本方針を制定し、基本的な環境目標を設定する。 (2) 環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。責任者には、役割、責任及び権限を明示する。 (3) 環境経営システムの構築・運営に関する情報を収集し、方針・目標をはじめ、システム全体の見直しを行い、必要あれば改定を指示する。
環境管理責任者	(1) 社長に代わりガイドラインの要求事項を満たす環境システムを構築・運用し、その状況を社長に報告する。 (2) 環境経営システムの構築と運用を円滑に行い、代表者による全体の評価と見直しのための情報として、その構築・運用に関する情報を社長に提供する。
グループ責任者	(1) 社長及び環境管理責任者を補佐し、掌握範囲内の全員参画による環境経営システムの運用と改善を推進する。 (2) 管理範囲内において、全員参画による環境経営システムの運用及び管理の責務を負い、必要な教育訓練を図る。
環境安全委員会	定例会とし（原則毎月）エコアクション 21 の啓蒙浸透を図る。
環境事務局	環境安全委員会の事務局機能を有する。また、エコアクション 21 に関する書類作成・立案及び管理業務、取りまとめを行う。

2 環境方針

環境方針

【環境理念】

株式会社 池上鉄工所は、精密機械・金型・製缶の製作、プラント施工の事業を通して、社会貢献を目指しています。

これらの事業は、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会による持続可能な社会に対応させることの重要性を自覚し、エコアクション21環境マネジメントシステムによる環境負荷削減、環境配慮製品・サービス活動を展開します。

【環境行動指針】

1. 環境目標・計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。
2. 具体的な取り組みとして、次のことを推進します。
 - ① 節電・省エネルギーに努め、二酸化炭素の排出量を削減します。
 - ② 産業廃棄物及び一般廃棄物は、3R（リデュース・リユース・リサイクル）に努めます。
 - ③ 水の使用量の削減に取り組みます。
 - ④ 化学物質の徹底管理と削減に取り組みます。
 - ⑤ グリーン購入に努めます。
 - ⑥ 本社事務所・工場周辺の環境美化に努めます。
 - ⑦ 環境に配慮した工事施工に取り組みます。
3. 環境関連法規制等を遵守します。

制定日 2007年10月1日

改訂日 2012年10月1日

株式会社 池上鉄工所

代表取締役社長 松田 清

3 環境目標

3.1 環境目標の設定 (3 カ年計画)

2019 年度より 2021 年度までの 3 カ年の環境活動目標を下記のように設定した。

【 2019 年度から 2021 年度までの環境活動目標 3 カ年計画 】

- ①二酸化炭素排出量を 3 年間で 6%削減する。
- ②廃棄物の総排出量を 3 年間で 6%削減する。
- ③水資源投入量 (排水量) を 3 年間で 6%削減する。
- ④化学物質の購入量の把握、削減に取り組む。
- ⑤グリーン商品購入に努める。
- ⑥本社事業所周辺の清掃を月 1 回、行う。
- ⑦環境に配慮した工事施工を行う。

※基準データは 2016 年度から 2018 年度の実績の平均値とする。

環境活動 3 カ年計画の具体的な数値目標を図表-1 に示す。

環境活動 3 カ年計画目標値								
項 目	2018 年度 実 績 (17.10~18.9)	2016~2018 活動実績 平均値 (基準値)	2019 年度 (18.10~19.9)		2020 年度 (19.10~20.9)		2021 年度 (20.10~21.9)	
			目 標	増減 率	目 標	増減率	目 標	増減 率
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	114,369	120,358	117,951	-2%	115,544	-4%	113,137	-6%
廃棄物排出量(ton)	13.8	12.9	12.7	-2%	12.4	-4%	12.1	-6%
水資源投入量(m ³)	1,664	3,943	3,864	-2%	3,786	-4%	3,707	-6%
化学物質購入量 (ton)	2.49	2.26	2.22	-2%	2.17	-4%	2.13	-6%
グリーン購入 (品目)	175	188	190.3	+1%	192.2	+2%	194.1	+3%
本社事業所周辺の 清掃活動(回)	12	12	毎月 1 回 (年間 12 回)		毎月 1 回 (年間 12 回)		毎月 1 回 (年間 12 回)	
環境配慮工事施工	活動計画 遵守	活動計画遵守	活動計画遵守		活動計画遵守		活動計画遵守	

※活動目標は、2016 年度~2018 年度の実績の平均値から 6%削減することを目標として計算しています。

※グリーン購入は、2016 年度~2018 年度の実績の平均値から 3 年間で 3%増加することを目標としています。

※増減率は、基準値を基準として計算しています。

※九州電力 電力の CO₂排出係数は、2018 年度実績=0.528、基準値と 2019 年度以降=0.463 を使用。

図表-1 環境活動 3 カ年計画の数値目標

3.2 本年度の環境目標

環境目標 3 カ年計画を達成するため、本年度の環境目標の詳細を図表-2 に示す如く設定した。

4 環境活動計画

環境目標 3 カ年計画を達成するため、本年度の環境計画を策定したが、活動の詳細は、6.8 環境活動に対する評価 図表-17 (P13) を参照ください。

5 環境活動目標の実績

本年度の環境活動目標の実績を図表-2 に示すような結果となった。

(表中の増減率は、基準値から何%増減したかを示す。)

本年度の環境活動目標の実績								
項 目			単 位	2018 年度 17.10~18.9 実 績	2016~2018 実績平均値 (基準値)	2019 年度(18.10~19.9)		
						目 標	実 績	増減率
二酸化炭素 排出量	購入 電力	200V	kWh	103,771	125,403	122,895	97,734	-22.1%
		100V	kWh	52,694	66,546	65,215	57,865	-13.0%
		合計	kWh	156,465	191,949	188,110	155,599	-18.9%
		灯油	L	3,163	3,032	2,971	2,352	-22.4%
		ガス (LPG)	m ³	5.6	4.7	4.61	5.9	+25.5%
		ガソリン	L	8,094	8,200	8,036	9,615	+17.3%
		軽油	L	1,930	1,859	1,822	2,444	+31.5%
		二酸化炭素 排出量合計	kg-CO ₂	114,369	120,358	117,951	106,658	-11.4%
廃棄物 総排出量		コピー用紙使用量	枚	160,000	144,168	141,285	205,000	+42.2%
		一般廃棄物排出量	ton	0.442	0.454	0.445	0.44	-3.1%
		産業廃棄物排出量	ton	13.34	12.47	12.22	30.32	+143%
		廃棄物排出量合計	ton	13.78	12.92	12.67	30.76	+138%
	水資源投入量 (排水量)	m ³	1,664	3,943	3,864	1,705	-56.8%	
	化学物質購入量	ton	2.49	2.26	2.22	2.93	+29.6%	
	グリーン購入	品目	175	188	190.3	160	-14.9%	
	本社事業所周辺の清掃	回	12	12	12	12	±0%	
	環境に配慮した工事施工	回	活動計画遵守					

※九州電力 電力の CO₂排出係数は、2018 年度実績=0.528、基準値と 2019 年度=0.463 を使用。

図表-2 環境目標の実績

6 環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容

6.1 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の削減についての活動実績は、図表-3、図表-4 に示すように、全体では基準値に対して活動実績が-11.4%となり、目標を達成できた。

詳細を見てみると、購入電力 200V が基準値に対して-22.1%、購入電力 100V が基準値に対して-13.0%と減少した。これは 2016 年 11 月に工場内及び事務所内の水銀灯・蛍光灯を LED に交換したこと (一部は未交換)、また事務所 1 階経理室と 2 階控え所のエアコンを交換したことが大きく省エネに繋がっていて、今も省エネ効果が継続している。

灯油は基準値に対して-22.4%と目標達成できたが、ガソリンが基準値に対して+17.3%、

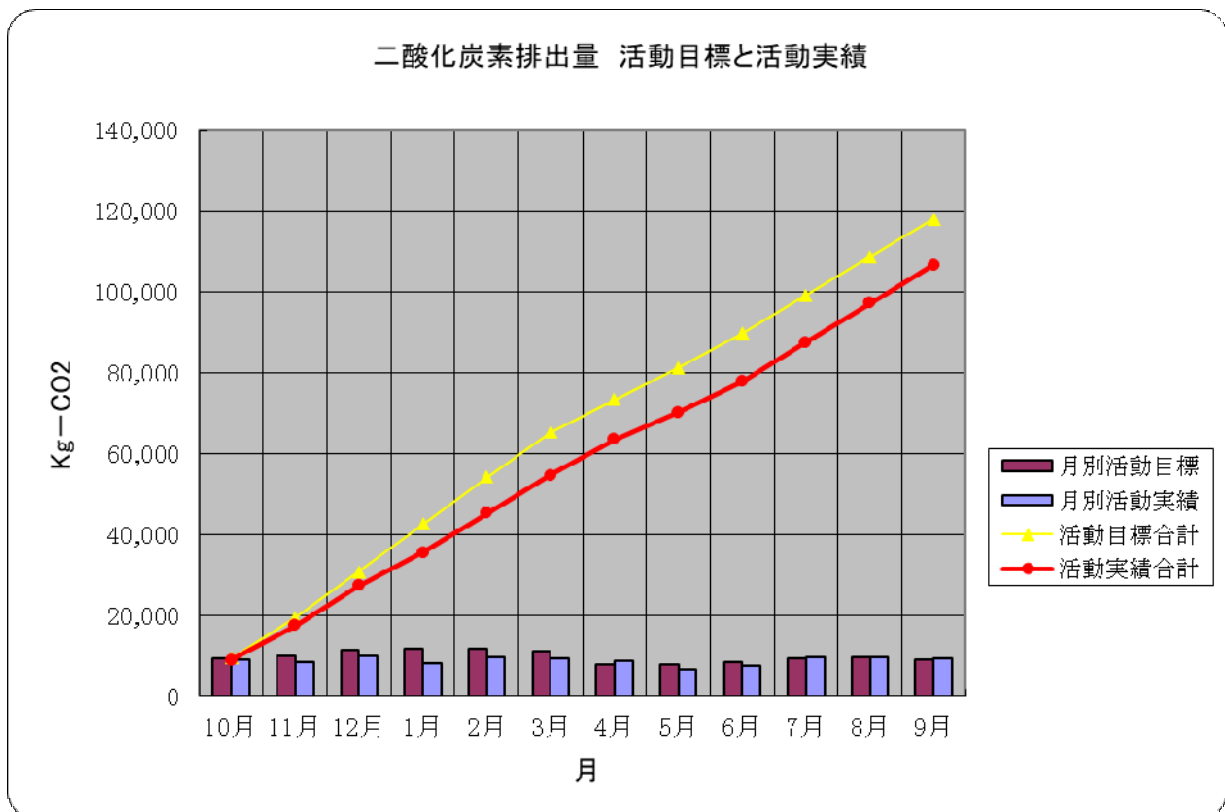
軽油が基準値に対して 31.5%と目標を達成できなかった。仕事の受注動向や遠隔地への出張、現場溶接作業でのエンジンウエルダー・発電機使用により左右されるが、社員の意識改革が進んでいると思われる。

またガス（LPG）が基準値に対して+25.5%となった。これは事務所にウォーターサーバーを設置しお湯も出るが、お湯が少しぬるめなので昼食用インスタントラーメンやスープを作る際に時間がかかるので、ガスでお湯を沸かす機会が多くなった為と思われる。（表中の増減率は、基準値から何%増減したかを示す。）

項目	単位	2018 年度 17.10~18.9 実績	2016~2018 実績平均値 (基準値)	2019 年度 (18.10~19.9)		
				目標	実績	増減率
二酸化炭素 排出量	購入 電力	200V kWh	103,771	122,895	97,734	-22.1%
		100V kWh	52,694	65,215	57,865	-13.0%
		合計 kWh	156,465	188,110	155,599	-18.9%
	灯油 L	3,163	2,971	2,352	-22.4%	
	ガス (LPG) m ³	5.6	4.61	5.9	+25.5%	
	ガソリン L	8,094	8,036	9,615	+17.3%	
	軽油 L	1,930	1,822	2,444	+31.5%	
二酸化炭素 排出量合計	kg-CO ₂	114,369	120,358	117,951	106,658	-11.4%

※九州電力 電力の CO₂排出係数は、2018 年度=0.528、基準値と 2019 年度=0.463 を使用。

図表-3 二酸化炭素排出量の削減目標と活動実績表



図表-4 二酸化炭素排出量 活動目標と活動実績の推移

6.2 廃棄物排出量の削減

産業廃棄物・一般廃棄物・コピー用紙使用量の排出量については、図表-5～8 に示す。

産業廃棄物・一般廃棄物については、基準値に対して産業廃棄物が+143%、一般廃棄物が-3.1%となっており、廃棄物合計では+138%と目標を達成できなかった。

産業廃棄物については、大型機械の撤去工事で多量の金属くずを処分したこと（中間処理後に金属スクラップとしてリサイクル）、その他の現場工事や製作物で木くずが多く出たこと、また9月に5Sカイゼン活動にて本社工場内の不要物を処分したことが目標未達に繋がった。

一般廃棄物排出量については、分別ができていないことがあるので、分別方法を社内環境安全委員会や社員が集まる場で周知している。

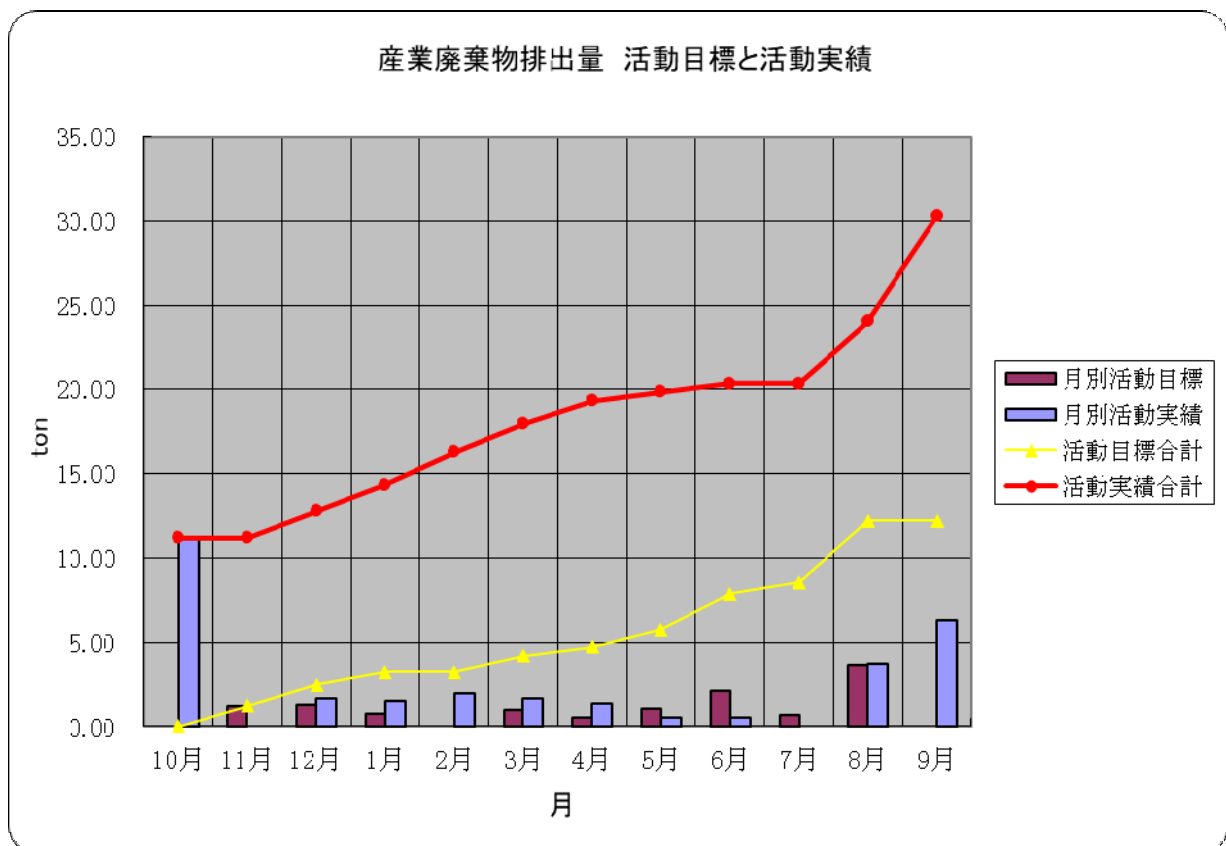
コピー用紙使用量については基準値に対して+42.2%と目標達成できなかった。

コピー用紙はまとめ買いをしていることもあり、数値管理が難しい。

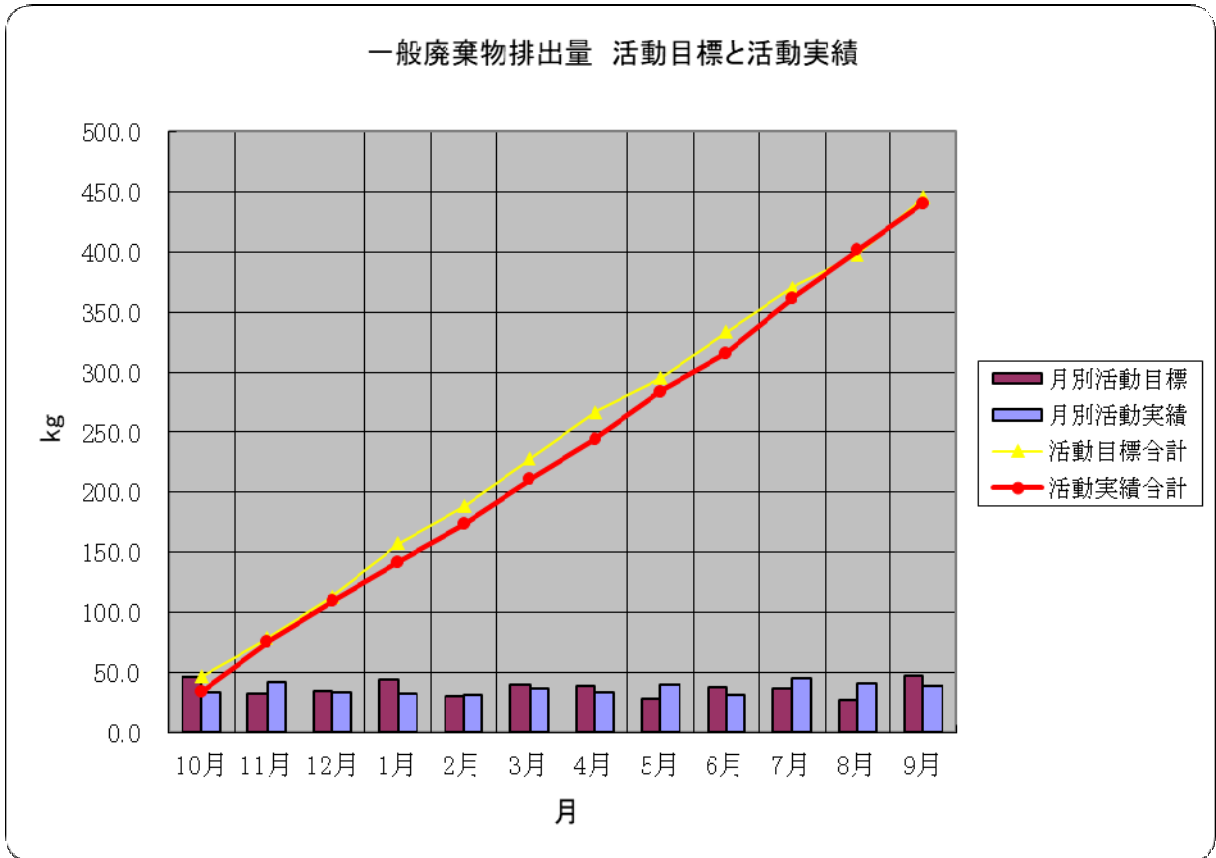
(表中の増減率は、基準値から何%増減したかを示す。)

廃棄物排出量の活動目標と活動実績							
項 目	単 位	2018 年度 17.10~18.9 実 績	2016~2018 実績平均値 (基準値)	2019 年度 (18.10~19.9)			
				目 標	実 績	削減率	
廃棄物 総排出 量	コピー用紙使用量	枚	160,000	144,168	141,285	205,000	+42.2%
	一般廃棄物排出量	ton	0.442	0.454	0.445	0.44	-3.1%
	産業廃棄物排出量	ton	13.34	12.47	12.22	30.32	+143%
	廃棄物排出量合計	ton	13.78	12.92	12.67	30.76	+138%

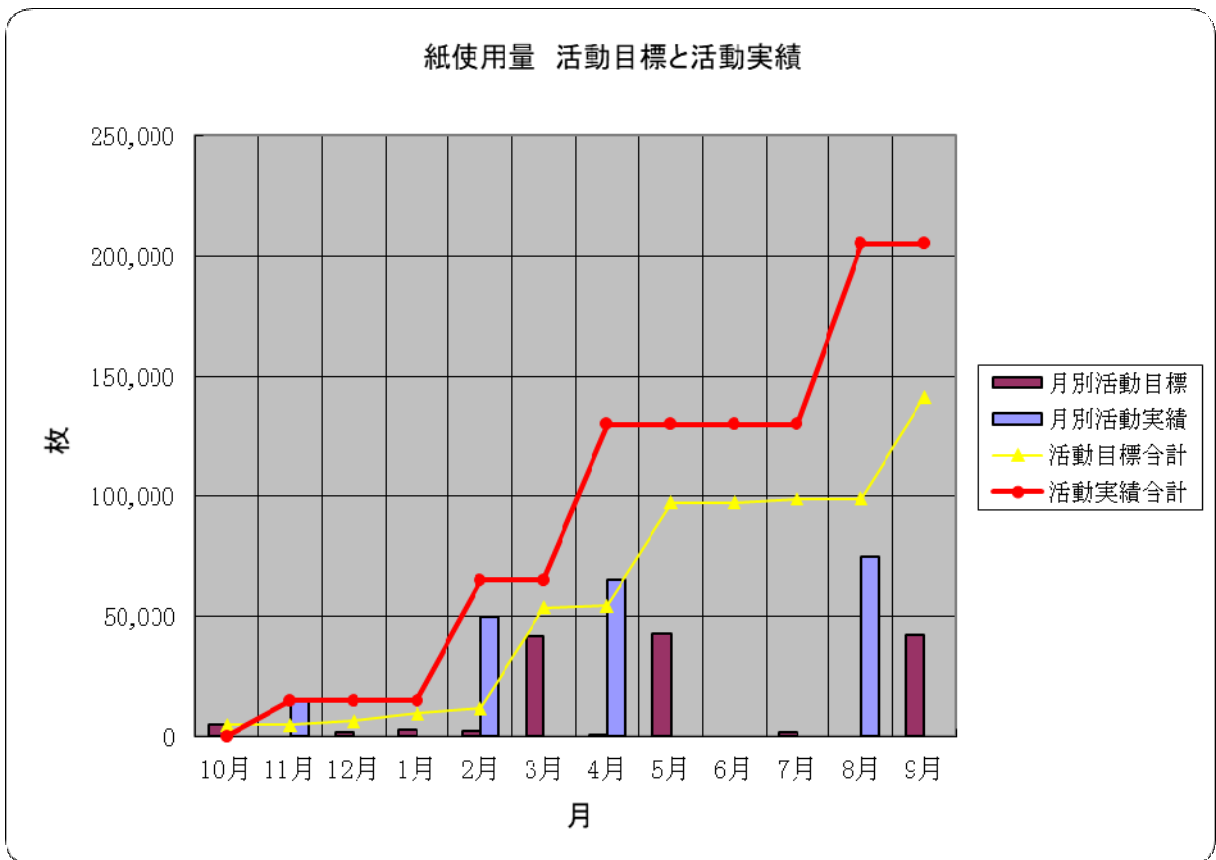
図表-5 廃棄物排出量 活動目標と活動実績表



図表-6 産業廃棄物排出量 活動目標と活動実績の推移



図表-7 一般廃棄物 活動目標と活動実績の推移



図表-8 紙使用量 活動目標と活動実績の推移

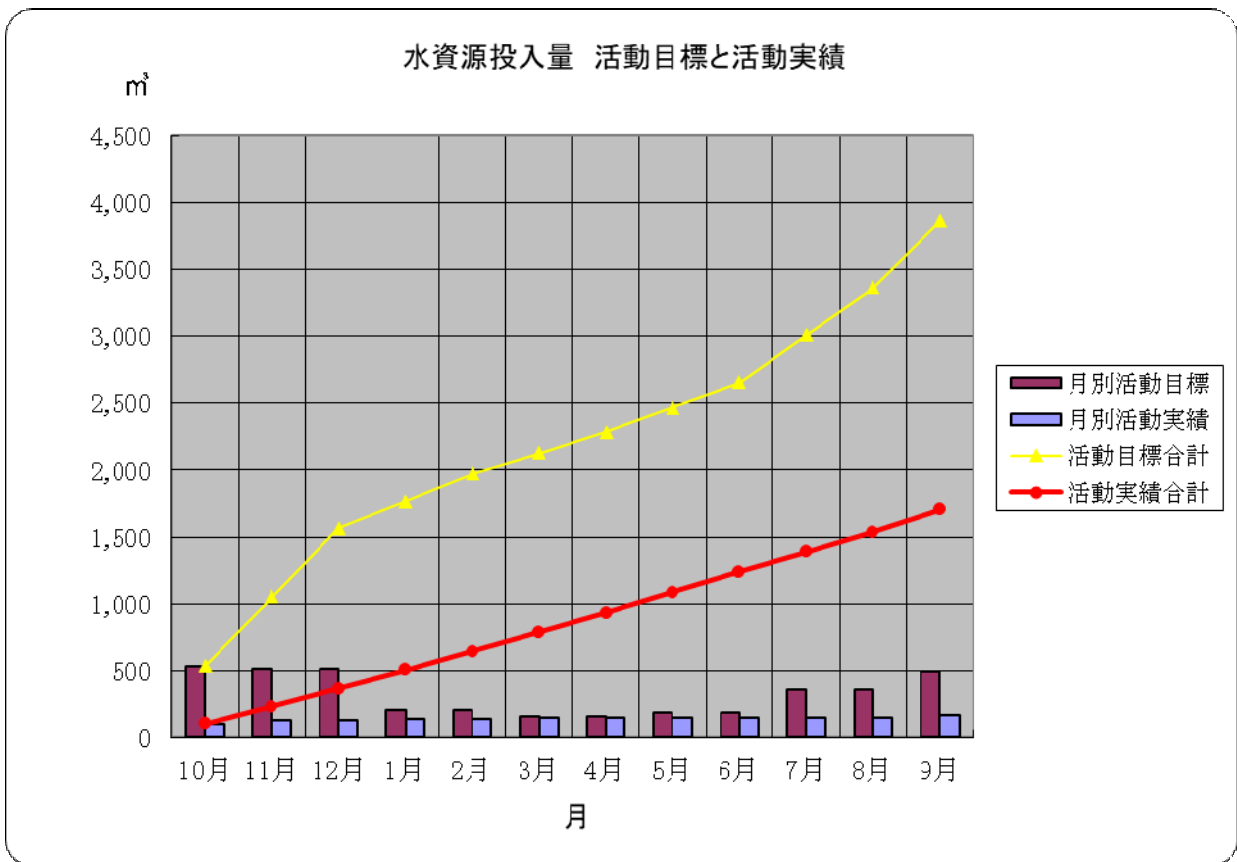
6.3 水資源投入量（排水量）の削減

水資源投入量（排水量）については、図表-9、図表-10 に示す。基準値に対して-56.8% となり、大幅な目標達成となった。

今年度は水漏れが発生しなかったが、水道管が老朽化していると思われるので、メーター 確認等を行いながら注視していく。（数値管理は、水漏れの発生の有無で左右される）
（表中の増減率は、基準値から何%増減したかを示す。）

水資源投入量の活動目標と活動実績						
項 目	単 位	2018 年度 17.10~18.9 実 績	2016~2018 実績平均値 (基準値)	2019 年度 (18.10~19.9)		
				目 標	実 績	増減率
水資源投入量（排水量）	m ³	1,664	3,943	3,864	1,705	-56.8%

図表-9 水資源投入量 活動目標と活動実績表



※単位は、立法メートルです。

図表-10 水資源投入量 活動目標と活動実績の推移

6.4 化学物質購入量の把握・削減

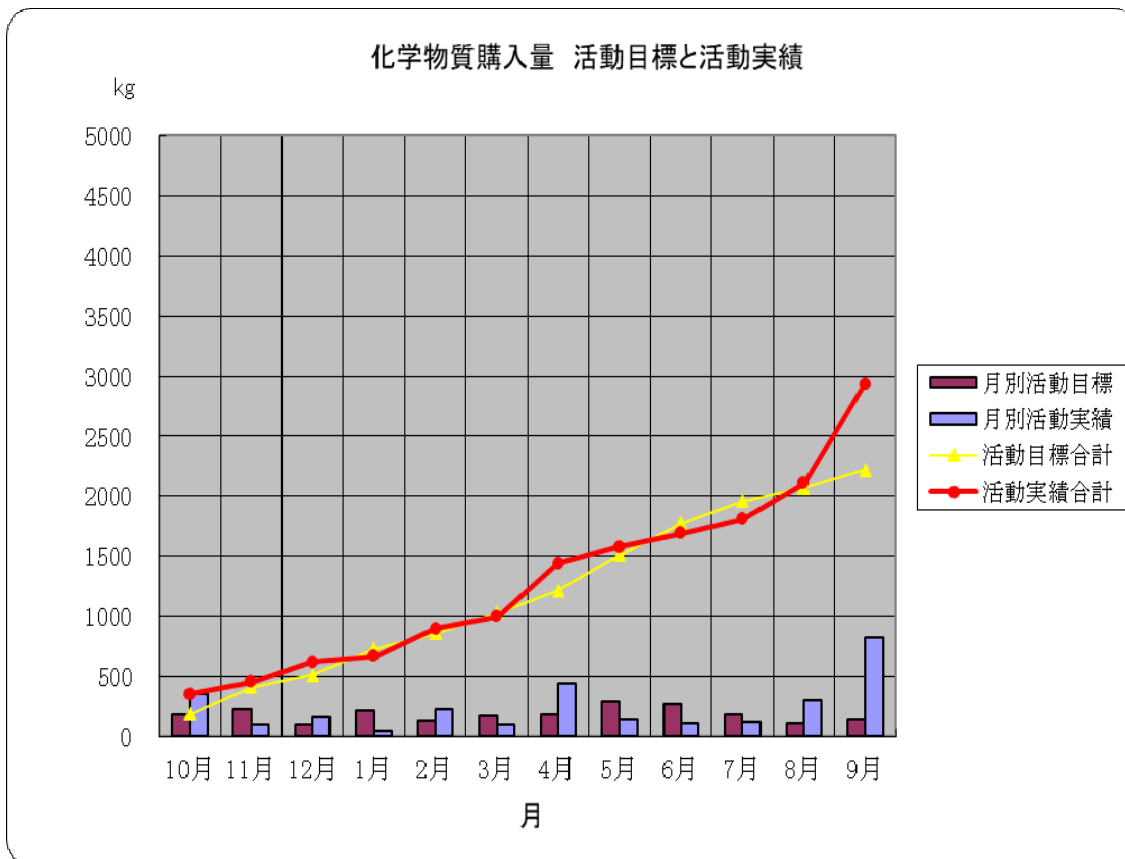
化学物質購入量については、図表-11、図表-12 に示す。基準値に対して、+29.6%と目標達成できなかった。

仕事の受注動向等で左右されるので、数値管理は難しい。

(表中の増減率は、基準値から何%増減したかを示す。)

項目	単位	2018 年度 17.10~18.9 実績	2016~2018 実績平均値 (基準値)	2019 年度 (18.10~19.9)		
				目標	実績	増減率
化学物質購入量	ton	2.49	2.26	2.22	2.93	+29.6%

図表-11 化学物質購入量 活動目標と活動実績の推移



図表-12 化学物質購入量 活動目標と活動実績の推移

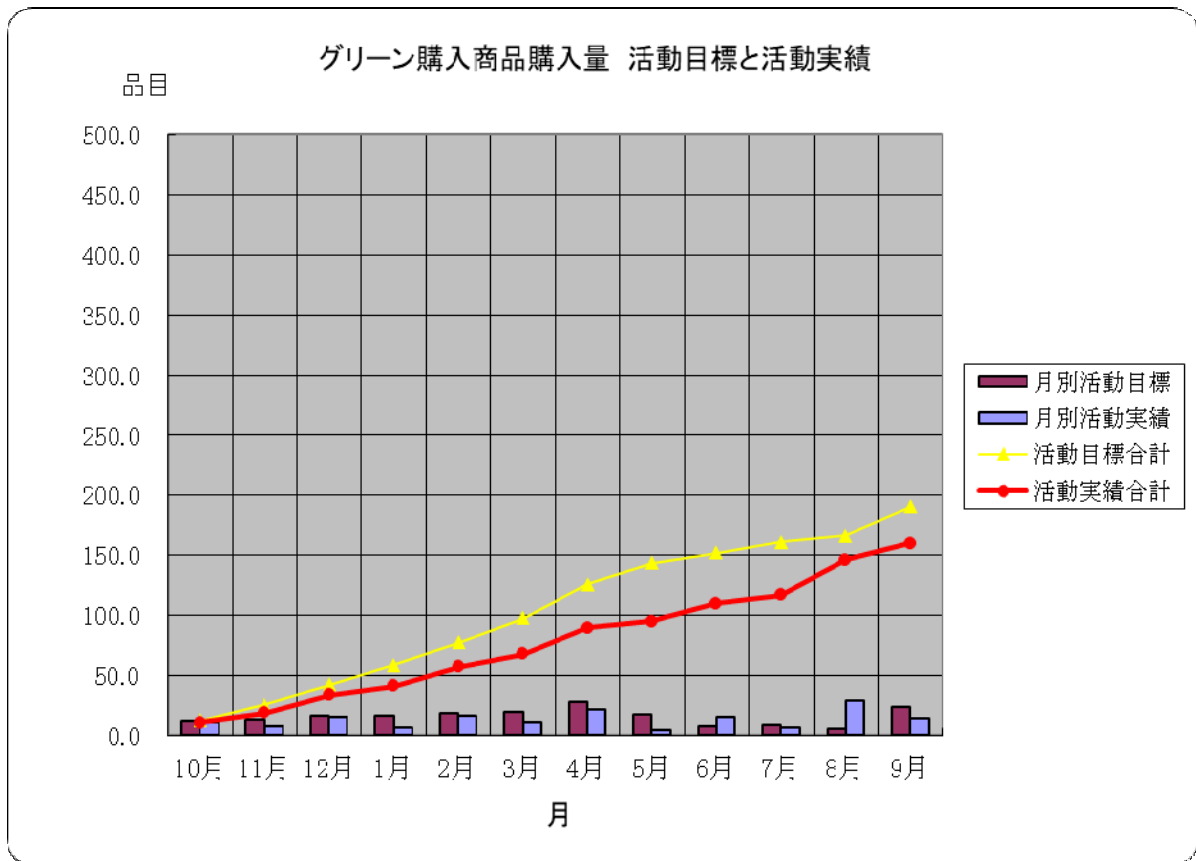
6.5 グリーン購入

グリーン購入について、図表-13、図表-14 に示す。基準値に対して、-14.9%と目標達成できなかった。

グリーン購入商品は割高な物もある為、価格を比較し割安であれば購入するよう、継続して周知していく。(表中の増減率は、基準値から何%増減したかを示す。)

項目	単位	2018 年度 17.10~18.9 実績	2016~2018 実績平均値 (基準値)	2019 年度 (18.10~19.9)		
				目標	実績	増減率
グリーン購入	品目	175	188	190.3	160	-14.9%

図表-13 グリーン購入 活動目標と活動実績の推移



図表-14 グリーン購入 活動目標と活動実績の推移

6.6 本社事業所周辺の清掃

環境方針変更に伴い、2013 年度から新たにスタートした活動です。その結果を、図表-15 に示す。

毎月清掃をして、環境美化に努めている。

事務所・工場周辺の清掃 活動目標と活動実績						
項目	単位	2018 年度 17.10~18.9 実績	2016~2018 実績平均値 (基準値)	2019 年度 (18.10~19.9)		
				目標	実績	増減率
本社事業所 周辺の清掃	回	12	12	12	12	±0%

図表-15 事務所・工場周辺の清掃 活動目標と活動実績の推移

6.7 環境に配慮した工事施工

2014 年度から新たにスタートした活動です。その結果を図表-16 に示す。

関係法令・旭化成工事安全技術標準に基づいた工事施工を行っている。

環境に配慮した工事施工の活動目標と活動実績						
項目	単位	2018 年度 17.10~18.9 実績	2016~2018 実績平均値 (基準値)	2019 年度 (18.10~19.9)		
				目標	実績	増減率
環境配慮施 工事施工	---	活動計画 遵守	活動計画 遵守	活動計画 遵守	活動計画 遵守	±0%

図表-16 環境に配慮した工事施工 活動目標と活動実績の推移

6.8 環境活動の評価

今期の環境活動に対する評価は、図表-17 に示す。

項目	環境活動内容	活動方法等	評価結果
活動 P R	①環境活動方針の周知徹底	環境方針の掲示	◎
二酸化炭素排出量の削減	①昼休みは事務所・工場内電灯消灯		◎
	②エアコンの運転監視をする。 (設定温度：冬季 21℃，夏季 26℃)	時間を決めて、on/off する。	○
	③フィルタの清掃を行う。	シーズン前に実施	△
	④エコドライブに努める。	P R (環境教育)	◎
	⑤車両の整備点検をこまめにする。	法定点検の遵守	◎
	⑥ストーブの利用管理	シーズン前の P R	△
	⑦チグニーのアイドリング防止	注意喚起	○
廃棄物排出量の削減	①分別回収でリサイクルに努める。	回収ボックスの区分	○
	②再利用排出に努める。	置場の区分	◎
	③パレット・梱包材の再利用	P R (環境教育)	◎
	④裏紙の再利用(個人情報、機密文書は使用しない)	P R (環境教育)	◎
	⑤シュレッダー処理は最小限にする。	P R (環境教育)	○
	⑥ペーパーレス化に努める。	社内 Lan、プロジェクトの活用	○
	⑦両面印刷・2 アップ印刷の活用	P R、カウンター調査	△
環境汚染防止	①チグニー燃料漏れ防止	オイルパンの設置	器材準備 良
	②油流出の防止	マット、吸着砂の配備	器材準備 良
	③エアコン・スポットクーラーの点検	点検チェックシート	△
	④溶接等の火花による火災防止	防災シート、防火用水、消火器の配備及び残火の確認	◎
水資源投入量の	①清掃時、節水に努める。	P R (貼り紙)	◎
	②水道メーターの確認	1 日 2 回確認/月曜日	△
グリーン購入	グリーン購入に努める。	エコマーク商品の購入	△
化学物質管理	毎月の購入量の把握	リストアップ	○
環境美化活動	本社事業所周辺の環境美化	月 1 回の清掃活動	○
環境配慮工事施工	①関係法令を遵守した工事施工		◎
	②旭化成工事安全技術標準を遵守した工事施工		◎
	③電動工具の点検	年 2 回の点検	◎
【環境活動の評価】			
<p>全体的には環境活動自体も浸透してきていると思われるが、個人差があるので更なる改善と啓蒙 P R が必要と思われる。冬場及び夏場はエアコンの設定温度及び運転管理は、外気温等を考慮している。</p> <p>廃棄物は分別しているが、中には分別せずに捨てている人もいるので、分別して捨てるよう度々 P R している。</p> <p>エアコン・スポットクーラーの点検は、スポットクーラーは夏場のみ使用し倉庫に片付けるので、定期的に点検できていない。使用してない時も点検するよう周知する。水道メーターの確認は、できていない時もあるので、なるべく行うようにする。グリーン購入は少し停滞ぎみではあるので、再度周知 P R を行う。</p>			
<p>評価結果 ◎：実施中(良好) ○：実施中(あと一步) △：実施中(まだまだ) ×：実施されていない</p>			

図表-17 環境活動の評価【全社】

6.9 次年度の取組内容

次年度2020年度の取組内容は、図表-18に示す。2020年度の環境目標を図表-19に示す。

項目	環境活動内容	活動方法等	担当者	活動時期
活動PR	①環境活動方針の周知徹底	環境方針の掲示	浮島	6月・9月
二酸化炭素排出量の削減	①昼休みは事務所・工場内電灯消灯		各アイテム長、 浮島、森	毎日
	②エアコンの運転監視をする (設定温度：冬季22℃，夏季25℃)	時間を決めて、on/offする。	事務所全員	エアコン 運転時
	③フィルタの清掃を行う	シーズン前に実施	浮島	6月・11月
	④エコドライブに努める	PR（環境教育）	浮島	6月・9月
	⑤車両の整備点検をこまめにする	法定点検の遵守	渡邊	適宜
	⑥ストーブのメリハリある使用	PR（環境教育）	各アイテム長、 浮島	11月
	⑦チグニーのアイドリング防止	注意喚起	佐藤義、浮島	作業時
廃棄物排出量の削減	①分別回収でリサイクルに努める	回収ボックスの区分	浮島	通年
	②再利用排出に努める	置場の区分	各アイテム長	通年
	③パレット・梱包材の再利用	PR（環境教育）	各アイテム長	通年
	①裏紙の再利用（個人情報、機密文書は使用しない）	PR（環境教育）	浮島	通年
	②シュレッダー処理は最小限にする。	PR（環境教育）	浮島	通年
	③ペーパーレス化に努める	社内 Lan、プロジェクトの活用	松田専務、浮島	通年
	④両面印刷・2アップ印刷の活用	PR、カウンター調査	浮島	通年
環境汚染防止	①チグニー燃料漏れ防止	防液堤の設置	工事監督者	作業時
	②油流出の防止	マット、吸着砂の配備	工事監督者	作業時
	④エアコン・スポットクーラーの点検	点検チェックシート	各アイテム長、 浮島	3ヶ月に 1回
	③溶接等の火花による火災防止	防災シート、防火用水、 消火器の配備及び残火の確認	工事監督者	作業時
水資源投入量の削減	①清掃時の節水に努める	PR（貼り紙）	事務所全員	毎週金曜日
	②水道メーターの確認	1日1回確認	浮島	毎週月曜日
グリーン購入	グリーン購入に努める	エコマーク商品の購入	渡邊	商品購入時
化学物質管理	毎月の購入量の把握	リストアップ	浮島	毎月初旬
環境美化活動	本社事業所周辺の環境美化	月1回の清掃活動	事務所全員	第2月曜日
環境配慮工事施工	①関係法令を遵守した工事施工		浮島、佐藤義	工事毎
	②旭化成工事安全技術標準を遵守した工事施工		浮島、佐藤義	工事毎
	③電動工具の点検	年2回の点検	浮島、佐藤義	2月・8月

図表-18 2020年度の取組内容【全社】

項 目		単 位	2016~2018 実績平均値 (基準値)	2019 年度 18.10~19.9 実 績	2020 年度 19.10~20.9 環境目標	基準値 対 比 増減率	
二酸化炭素 排出量	購入 電力	200V	kWh	125,403	97,734	120,387	-4%
		100V	kWh	66,546	57,865	63,884	-4%
		合計	kWh	191,949	155,599	184,271	-4%
	灯油		L	3,032	2,352	2,911	-4%
	ガス (LPG)		m ³	4.7	5.9	4.51	-4%
	ガソリン		L	8,200	9,615	7,872	-4%
	軽油		L	1,859	2,444	1,785	-4%
	二酸化炭素 排出量合計		kg-CO ₂	120,358	106,658	115,544	-4%
廃棄物 総排出量	コピー用紙使用量		枚	144,168	205,000	138,401	-4%
	一般廃棄物排出量		ton	0.45	0.44	0.436	-4%
	産業廃棄物排出量		ton	12.5	30.32	11.97	-4%
	廃棄物排出量合計		ton	12.9	30.8	12.4	-4%
水資源投入量 (排水量)		m ³	3,943	1,705	3,786	-4%	
化学物質購入量		ton	2.26	2.93	2.17	-4%	
グリーン購入		品目	188	160	192.2	+2%	
本事業所周辺の清掃活動		回/年	12	12	12	±0%	
環境配慮工事施工		---	活動計画遵守	活動計画遵守	活動計画遵守	---	

※2020年度の活動目標は、2016年度～2018年度の実績の平均値から4%削減することを目標として計算しています。

※グリーン購入は、2016年度～2018年度の実績の平均値から2%増加することを目標として計算しています。

※九州電力 電力のCo₂排出係数は、2018年度=0.528、基準値と2019年度以降=0.463を使用しています。

図表-19 2020年度 環境目標

7 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規に関する違反について1年間の遵守状況を自ら確認及び評価した結果、違反はなかった。

また関係機関等からの指摘、地域からの環境に関する苦情・要望は過去4年間無く、訴訟等も同様に1件も無かった。

8 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション 21（2009 年版）に基づき、2019 年度代表者による全体の評価と見直し記録を下記に示す。

エコアクション 21 の活動を始めて今年で 11 年になり、その中でガイドラインの改定や環境方針の見直し、活動内容の変更等があったが順調に活動を継続できている。

エコアクション活動は、環境事務局・社員・協力企業社員の地道な積み重ねのおかげで浸透してきた。これからも引き続きエコアクション活動に取り組み、また環境に対する更なる意識の向上を図っていく。

ただしガイドラインが 2017 年版に改訂になったので、今後は移行しながら要求事項に対応し来年の更新審査は 2017 年版で受審したいと思う。

2016 年 11 月から 12 月にかけては、国の補助金を活用し事務所・工場内の水銀灯及び蛍光灯を LED に、また事務所 1 階経理室と事務所 2 階控え所のエアコンを交換したが、その省エネ効果も継続して出ている。また 2019 年度 9 月末に本社内のエアコン 3 台の入れ替えを行い、省エネ効果が今後出てくると思う。

水使用量については、現在地での工場稼働開始から 40 年以上が経過し、水道管の老朽化により水漏れが毎年のように発生していたが、今年度は水漏れは無かった。

しかし老朽化による水漏れが十分想定されるので、水道メーター等を注視していき水漏れ発生が疑われる場合は早急に対応する。

ごみの分別については、おおよそは出来ているが不十分なところもあるので、更なる周知徹底を図っていく。

数値目標については、2019 年度から設定し直して活動してきたが、仕事受注増により目標未達の項目もあった。

エコアクション活動は、地道な積み重ねにより浸透してきたので、これからも引き続き取り組み、意識の向上を図っていく。